

学生の皆さんへ「全校的な面接授業の開始にあたって」(9月25日、校長講話)

おはようございます。校長の田村です。

既に集中面接授業という形で登校して頂いていたところですが、いよいよ本日より全てのクラスで面接授業をスタートさせる段階になりましたので、ぜひ気持ちも新たに勉学に臨んで欲しいと思い、ご挨拶の機会を頂きました。限られた時間ですが、3つのテーマでお話ししますので聞いて下さい。

1. コロナを乗り越え勉強頑張ろう

まず、最初は、ウィズコロナの中での勉強の話です。

今、私たち人類は新型コロナウイルス感染症という歴史的なパンデミックの中にあります。そして、社会には、このパンデミックの中で生きるために「経済を止めないように」、そして、我々学校には、次世代を担う人材を途切れることなく育成するために「教育を止めないように」という課題を与えられています。本校でもこの課題に対峙し、段階的に日常に戻していくと同時に、もし、このコロナ災害が長期化しても対応出来るように、適切な対応策を模索し、今まさにその計画に沿って全校的な面接授業を再開させました。

しかし、教育は、「教員が知識や技術を提供すること」がゴールではなく、学生の皆さんが、「目標とする力を獲得すること」がゴールです。その「目標として獲得すべき力」とは、知識や技術といったものもありますが、何より、人として自立することです。誠実なエンジニアとして、この社会を構成する人々から信頼される人物になることです。

ただ、この様な状況下で、私は、皆さんの中に「前期の授業の多くが遠隔授業だったけれど、成績が心配」とか、あるいは、「レポートがたくさん出て、まだ全部出来ていなくて、もうついていけない」と考えるような人が出ているのではないかと心配しています。

学校では、皆さんの様子について、例えば、担任が各科目の教員と情報共有するなどして、「学生の負担に配慮した課題の出し方をするように」とか、「教員が成績を評価する期間を例年より長く設定することで、皆さんがリカバーできるようにする」などして、できる限り、皆さんを支援する手立てを打っています。

当然のことですが、実力が身についていないのに合格とする事は出来ません。しかし、先生方も、コロナの影響に配慮し、これまで以上に皆さんに寄り添い、教育方法についての工夫はもちろんのこと、皆さんの実力を評価する方法や、皆さんが実力を付けるための時間の確保等について工夫し、時間のかかる人にはそれなりの対応をしてくださいますので、決して自分自身で無理と決めつけて、諦めることのないように勉強をしてください。

実は、まだ、来日できていない留学生も3名います。もちろん、そうした留学生も、私たちは全力で対応しますので、決して学ぶことを諦めないで下さい。

2. ストレスに流されることなく、ルールをまもろう

次に、「ストレスに流されることなく、ルールをまもろう」という話です。この「コロナ対応の日常に、かなりストレスが溜まっている人がいるのではないか」ということ。そして、「久しぶりにクラスメイトと対面で話が出来て少しだけコロナから解放された気持ちになったけど、例えば『久しぶりにみんなでストレス解消しよう』と、安易に集団的な問題行動に走ってしまう人が出るのではないか」ということを心配しています。

なぜ、「車を運転するときには制限速度を守りなさいとか、飲酒運転は絶対ダメです」といった交通ルールがあり、「他人の物を盗んではいけない」とか、「破廉恥な行為をしてはいけない」とか、「未成年者がお酒を飲んではいけない」という社会的なルールがあるのかについて説明の必要は無いでしょう。

しかし、事件や事故のあとに訪れる耐えきれない悲しみや憎しみの感情は、経験した人でないとなかなか理解しがたいものです。ときには、地獄絵を思わせる事態になります。私は、幾度となくそうした悲惨な事件事故と、そのあとの怒りと悲しみの場面に立ち会ってきました。

人々は、これまでの事件や事故に反省し、そうした悲惨なことが繰り返起きないように、**人道的あるいは科学的根拠をもって、ルールを作ることを思いついた**のです。つまり、ルールとは、みんなで力を合わせて悲劇に繋がる事件や事故を未然に防ごうという「**先人達の祈りが込められた約束**」なのです。どうか、ルールを守らないと**事件や事故が起きてしまう可能性が高くなる**こと、事件や事故が起きてしまうと、その先にたくさんの人に極めて悲惨な不幸が訪れるということを、想像できる大人になってください。

「自立した人になる」とは、自らの行動や発言の先に何が起きるのか想像できて、正しく行動できる人になることです。

3. 命を守ろう

最後に、「命をまもろう」という話です。どうか、自分の命と、そして、他人の命も大切にしてください。これは、ルールを守っておけば良いという話ではありません。この短いスピーチの中で語り尽くせる話でもありません。しかし、最も大切な話です。

校長として、皆さんの命、これ以上に大切なものはありません。私にとって家族の命と等しく、皆さんの命は最も大切なものです。

トラブルに巻き込まれそうになったときには、まずは、あなたとあなたの周りのひとの命を守るために毅然とした行動をとってください。そこでは、逃げることも正しい選択です。

自分自身の深い悩みについては、信頼できる大人に相談することがとても良い方法です。ネット上に流れている情報は、安易に信用しないで下さい。本校の相談室に相談する方法は最も良い方法の一つです。

それから、自分の周囲にトラブルに巻き込まれて深く悩んでいると思われる人がいたら、様子を聞いてあげることも友達への思いやりとしては良いのですが、けっして深入りせずに、その状況を信頼できる大人や先生に伝えてください。

社会は複雑です。全ての人は、家族のみならず社会と繋がっています。たくさんの人々と繋がっているということです。その中で生きていく、自立するということは、社会を構成する人々と折れ合いながら生きて行くということです。「折れ合いながら」というのは、隣どうし隣接する木々が、お互いに枝を折りながら共生している姿からきた言葉です。全ての人が、お互いを思いやり、慈しみ合いながら生きて行くことが大切です。はからずもコロナに感染してしまった人や濃厚接触者となってしまった人が出た場合には、その時こそ思いやりが大切ということです。

社会の苦難や課題に立ち向かうのがエンジニアです。そうした苦難を解決する際に大切なのが、その苦難の中にいる人の思いに共感することです。

ぜひ、本校を卒業し、自らの専門とする分野におけるエキスパートとして世界の平和のために活躍する人になるという、強い信念をもって、今の自分自身の課題を乗り越えて下さい。

私からのお話は以上です。コロナにも負けず、元気に、勉強を頑張りましょう。